

# 日本鉄鋼協会記事

## 編集委員会

**第2回和文会誌分科会** 開催日：4月13日。出席者：松下主査，ほか16名。

1. 論文審査報告  
12件掲載可，3件修正依頼
2. 鉄と鋼第10号掲載論文決定  
論文10件，技術資料1件を選定した。
3. 鉄と鋼特集号に関して  
「非調質高張力鋼の研究と開発」をテーマに第4回特集号を編集することになり，小委員会を構成した。
4. UDCに関する件  
UDCを採用することが承認され，来年1月より実施することになった。
5. 技術資料執筆依頼について  
技術資料1件を依頼することになった。

**第2回講演大会分科会** 開催日：4月27日。出席者：堀川主査，ほか20名。

1. 第81回講演大会について  
大過なく開催された旨が報告された。開始時間を9:30にしたこと，好評の由，懇親会，ジュニアパーティについては今後，より一層の検討が望まれる。
2. 第83回討論会について  
テーマ，座長がすでに決定している，4件について，再度確認がされた。ほか1件については，テーマ，座長ともに再検討されることになった。
3. 概要集のあり方について  
概要集小委員会の検討結果が，郡司委員より報告された。「鉄と鋼」の性格，講演大会の位置づけと関連させ，今後より，根本的な検討が必要である。
4. 講演大会の推移について，講演スライドについてその他。

**第2回英文会誌分科会** 開催日：4月28日。出席者：橋口主査，ほか13名。

1. 13件の論文について審査報告がなされた。
2. 委員よりの推薦と「鉄と鋼」57年5号（特集号「圧延用ロールの材質と寿命」）から7件の論文について投稿を勧誘することとなった。

## 共同研究会

**第1回総務幹事会** 開催日：4月19日。出席者：伊木幹事長，ほか28名。

幹事として新たに各分科会の主査直属幹事を加えて，活発な討議が行なわれた。

<決定事項>

1. 運営委員会の機構  
運営委員会の構成の1部を変更し，従来の協会研究担当理事に代つて研究委員会委員長が一人で代表することならびに，各共同研究会部会長のほかに新たに各分科会主査を加えることとして，運営委員会に答申することに

なった。

2. 部会，分科会の幹事会社の負担を少しでも軽減するため，部会，分科会開催中に昼食を出す場合には，食事費などとして，参加者より500円を7月1日より徴収するとし，次回運営委員会にはかることになった。

3. 部会，分科会の資料を公開するか否かは各部会，分科会の実情を調査した上，次回総務幹事会でさらに討議することになった。

## 品質管理部会

**第24回部会** 開催日：4月22，23日。出席者：河西部会長，ほか77名。

新しく部会長に河西氏（住金）を迎えて，神鋼・健保会館で行なわれた。第1日目は，共通議題「品質管理体制の実態調査票」が各社より発表された。実態調査票は下記4項目より構成されている。

1. QC担当部門の組織と構成人員
2. 45年度のQC教育内容，受講者数
3. 45年度QC関係主要プロジェクトの概要と問題点
4. 日常品質推移状況のCheckのための報告書，会議の内容

自由議題としては以下の項目について発表された。

1. 自主管理活動について（6件）
2. 外注管理について（1件）
3. 手法事例について（1件）
4. QC関係へのコンピューターの利用（3件）

第2日目は神鋼・加古川より加古川製鉄所の概況と品質管理状況の説明が行なわれ，午後同製鉄所の見学を行なった。

## 設備技術部会

**第4回圧延設備分科会** 開催日：3月25，26日。出席者：大石主査，ほか61名。

熱延設備のローラーテーブル，ミルスピンドルおよびカップリング，油圧設備，圧延ロール軸受，冷却水用バルブ類について活発な討議が行なわれたほか最近の保全管理の状況についての討議も行なわれた。

第1日目 私学会館（東京都千代田区）

第2日目 葉業会館（横浜市磯子区）

第2日目の午後石川島播磨重工業（株）横浜第一工場の工場見学を行なった。

## 原子力部会

**第4回シャフト炉小委員会** 開催日：4月14日。出席者：久田委員長ほか，8名。

1. 報告書案審議

通産省補助金を受けて実施した45年度の共同研究の成果報告書案の審議を行ない，大筋において了承した。

## 2. 45年度研究経理報告

決算報告が行なわれ承認された。

5100 万の予算に対して約 160 万の赤字であった。

## 3. 46年度計画について

本共同研究を46年度も継続して研究することが承認された。

予算は約4500万円、期間は約6ヵ月である。

## 標準化委員会

## ISO 鉄鋼部会

第2回 ISO/TC17/SC3 分科会 開催日: 4月16日。

出席者: 10名。

パリで4月26日から29日にわたって行なわれるミーティングで討議される最初の草案に対する各国コメント(40F, 41F, 42, 43, 44, 45, 46, , 47, 48, 49, 50, 51, 52)の検討。

第15回 ISO/TC17/SC1 分科会 開催日: 4月16,

17日。出席者: 川村主査, ほか9名。

## 1. V 定量方法に対する日本意見作成

—過塩素酸溶解法を推す—

## 2. Mo 定量方法に対する日本意見作成

—ISO 法は 9%Mo 程度まで精度よく定量できる良法であるので賛成する—

## 3. Si 共同実験結果の検討

実験結果をもとに日本意見の作成を検討した。

## 4. S 共同実験結果の検討

イタリー法, イギリス法での実験結果を検討した後, 今後イギリス法に絞ってさらに実験を行なうこととした。

ISO/TC17/SC12 分科会 開催日: 4月20日。出席者: 三佐尾主査, ほか7名。

第4回パリー会議(6月1日~4日)で審議される Continuous Hot-Dip Galvanized Carbon Steel Sheet of Commercial, Lock-Forming and Drawing Qualities (第1原案)および Hot Rolled Carbon Steel Sheet Coil for the Production of Cold Reduced Products(第2原案)に対する日本側意見の思想統一および今後取り上げ希望の議案の取りまとめを行なった。

## クリープ委員会

第1回委員会 開催日: 4月1日。出席者: 平委員長, ほか26名。

昨年12月の理事会でクリープ委員会の活動をより活発化する目的で技術部会員のメンバーを中心とする当委員会の改組が承認され, 同時に三島前委員長が退任され新委員長に京大平修二氏が委嘱された。本日の審議に先立ち平委員長から就任の挨拶が行なわれた。ついで委員会の組織に関し既存の各分科会における活動状況の説明がなされ, 引き続き継続事業を実施するとともに本年度より着手する新規事業を加えて次のごとく6分科会を置くことが了承された。併せてそれぞれ主査の委嘱が決定された。

○ 国際共通試験分科会 (主査・平 修二)

○ 高温引張試験分科会 ( / 田村今男)

○ スペシメンバンク分科会 ( / 大南正瑛)

○ データシート作成分科会 ( / 横井 信)

○ 金材技研クリープデータシート  
連絡分科会 ( / 田中良平)

○ 規格原案作成分科会 ( / 大南正瑛)

このほか, 分科会主査を中心に関係機関を含め運営のための幹事会をおくことが決定された。

## 試験高炉委員会

第19回委員会 開催日: 4月2日。出席者: 若林委員長代行, ほか11名。

第21次操業の中間報告ならびにその検討が東大千葉実験所で行なわれ, 今後の方針が決定された。

今回の操業では, 熱風炉の新設, シャフト部の延長, 炉床へのカーボンレンガ使用など, 設備的に大きく変化しており, 火入れ当初より安定操業に移行するまで, 長期間を要した。設備上の大きな問題点は熱風弁の漏風が激しいことで, 種々の改善を行なった結果, 一応基準送風量 5Nm<sup>3</sup>/min で, 送風温度 950°C は可能となつた。このような設備上の問題により操業が計画より大幅に遅れているため, 操業後半に予定していたヨークス反応性試験を今回は中止し, 燃料ガス吹き込みに重点を置いて試験操業を行なうことになつた。ヨークス反応性試験については, 本年8月頃比較的短期間で試験操業を行なう旨東大側より要請があり, 次回幹事会で検討の上, 委員会に計ることとなつた。

## 鉄鋼標準試料委員会

第35回委員会 開催日: 4月12日。出席者: 池野委員長, ほか18名。

## 1. 45年度決算報告

## 2. 46年度予算の承認

## 3. 酸素標準試料の製造予定の決定

## 4. 内規の見直しについて

運用上の問題点などを含めて在京委員会で内規の見直しを行なうこととした。

## 5. 45年度頒布状況の報告

45年度は化学分析用が約4400本, 機器分析用が190組頒布された。

## 材料研究準備委員会

第3回委員会 開催日: 3月31日。出席者: 大竹委員長, ほか21名。

## I. 研究所見学

川崎製鉄(株)技術研究所を見学した。

## II. 研究発表

下記4件の発表があり, 活発な質疑応答がなされた。

## ① 「鋼の焼もどし脆性に関する 2, 3 の考察」

……神鋼中研

## ② 「高炭素 13Cr ステンレス鋼の焼戻し

脆化について」……日新呉研

## ③ 「溶接部の再熱割れについて」…新日鉄製品技研

## ④ 「低合金鋼溶接部に生ずる応力除去焼鈍割れについて」…住金中央技研